

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

保存期慢性腎臓病（CKD）患者の QOL に影響を与える因子の検討 -横断的な前向き観察研究-

2. 研究責任者(当院)

所属：リハビリテーション室
氏名：島袋 匠

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし
代表名：なし

3. 分担研究者

所属：腎臓内科
氏名：藤井 隆之
所属：リハビリテーション室
氏名：加藤木 丈英、田畑 吾樹、白井 智裕

4. 研究対象者

2022年08月01日～2026年07月31日の間に、聖隷佐倉市民病院において、慢性腎臓病の教育目的で入院した方。

5. 研究の必要性

本邦において、保存期慢性腎臓病（CKD）患者は増加傾向であり、心臓血管イベントや透析導入を予防しながら、生命予後の延長、QOL の維持・向上に努めることが重要である。保存期慢性腎臓病患者は、健常人と比較し身体機能や認知機能が低下していることが報告されている。保存期 CKD 患者の有害事象の発生、QOL の低下、運動機能の低下に関連する因子を身体機能や認知機能の観点から明らかにすることで、リハビリテーションのより効果的な介入方法や有効な評価方法の確立に繋がると考えられる。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

研究等によって生ずる個人の影響は、運動機能評価や認知機能評価の実施により、身体的、精神的負担がかかる可能性があること、測定後に疲労感が残る可能性があることが考えられる。測定終了までに 40 分程度は時間を要しその時間は拘束されることが考えられる。対策として、研究途中であっても、対象者が心身のストレスを感じた場合、いつでも研究離脱が可能である事について研究依頼書に記載し、口頭でも十分説明する。また、測定中と実施前後には体調確認、バイタルサインを確認し、何らかの異常があれば実施を中止する。中止に伴い医療的処置が必要となった場合、研究者が責任をもって加入している理学療法士保険から支払いを行う。入院中に万が一、対象者の体調不良があれば主治医に報告し指示を仰ぐ。運動を行うことで血圧や心拍数などのバイタルサインや自覚症状の変化が起きる可能性が考えられるため、あらかじめリスクについて紙面と口頭にて十分に説明する。

本研究で予測される医学上の貢献の予測は、身体機能や認知機能に対するリハビリテーションの介入が、保存期 CKD 患者の生命予後の延長や透析リスク、QOL 低下の予防、理学療法分野における有効な評価指標や運動指導に確立に繋がることが考えられる。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151（代表）
担当者氏名：島袋 匠
対応時間：8:30～17:00